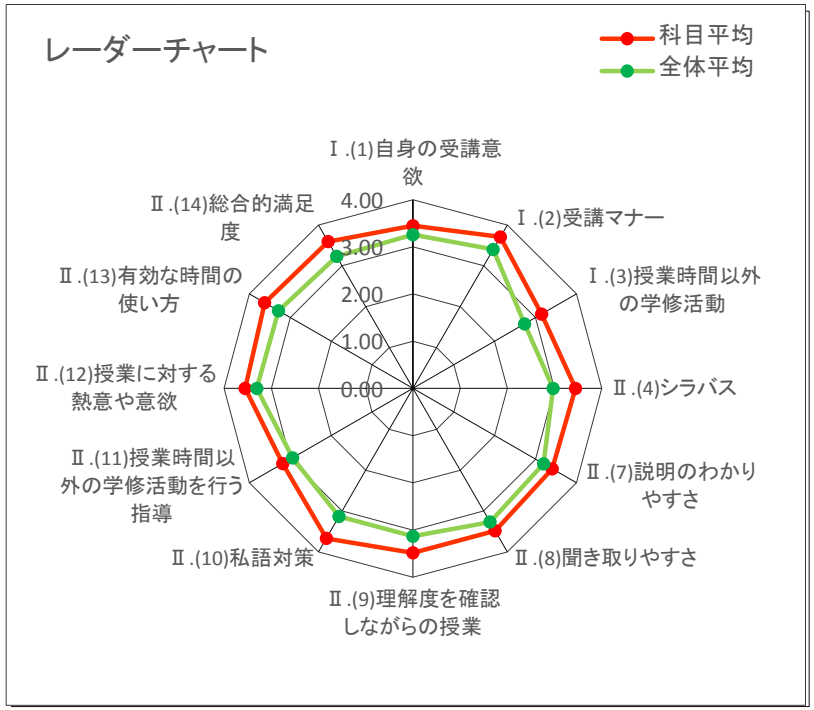
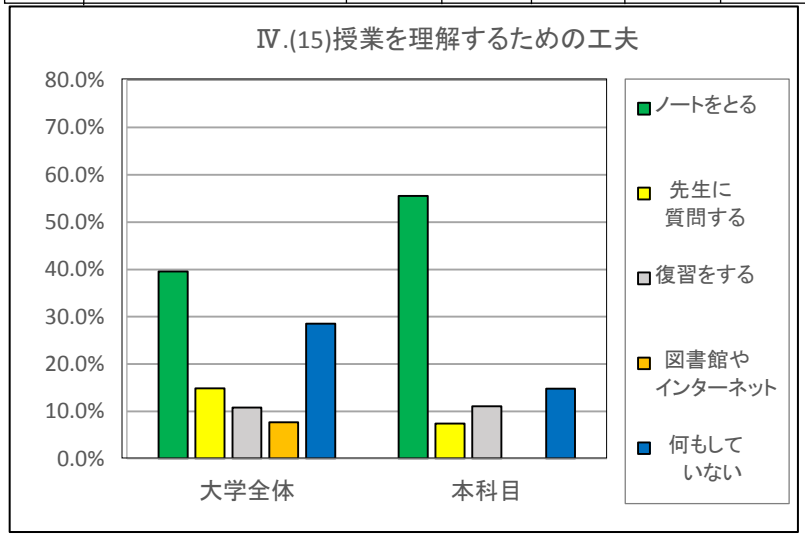
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.44	3.26
	Ⅰ.(2)	3.70	3.40
	Ⅰ.(3)	3.15	2.73
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.44	2.97
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.41	3.20
	Ⅱ.(8)	3.48	3.27
	Ⅱ.(9)	3.48	3.13
	Ⅱ.(10)	3.67	3.13
	Ⅱ.(11)	3.19	2.94
	Ⅱ.(12)	3.56	3.31
	Ⅱ.(13)	3.63	3.29
満足度	Ⅱ.(14)	3.59	3.23

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	55.6%	7.4%	11.1%	0.0%	14.8%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.43	3.13
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.48	3.15
総合的満足度 Ⅲ.(14)	3.59	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	14310/14355
科目名	リスクマネジメントⅠ/リスクマネジメント
教員名	

①授業計画の達成度について

シラバスに記述した授業計画に沿って、15回を「社会生活におけるリスク」「企業活動におけるリスク」「企業リスクのケーススタディ」の3部構成とし、確認テストを3回実施して成績評価をおこなった。各回では必修課題のテーマを1つに絞り、プリントの解答欄および裏面をノート代わりに使用するよう指示を与えた。自分で作成したノートが継続する授業を理解するために活用され、確認テストにおける問題を考える上でも有効であることを自得してもらうことを、教育目的の一つとした。

②授業の進め方について

授業の進め方は、全員で取り組む方が望ましい課題のときには、チョークをバトンにして、学生ひとりずつが思いつくことを黒板に書きだしていくといったワークを活用したり、特定の見方・考え方を説明する講義中心の場合にも、一人ひとりに関連事項の問い掛けをして、学生の思考を活性化するようにした。授業においては、教員と学生、学生と学生どうしが、共通の問題を共有することに時間をかけ、その上で、たとえ一瞬でも全員が考える過程に収斂することを、教育目的の一つとした。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート全体を見ると、授業内容の難易度は学生に適合しているようである。しかしながら、文献によると現在、企業のリスクマネジメントは経営の基幹に関わる事項であり、さらに言えば、「全社的リスクマネジメント」という考え方を経由して、さらなるパラダイム・チェインジ゛が起こっているようである。そのような問題提起をするために、企業体質から生じる日常業務のやり過ごしから、重大事件に発展したケースを取り上げたのだが、学生が討議課題を論述する際に、常識的な観点の範囲を越えることはできなかった。学生た学習した理論的な観点を取り込んで論じることができるまでを、教育目標の一つとしたいと考えている。

奈良学園大学